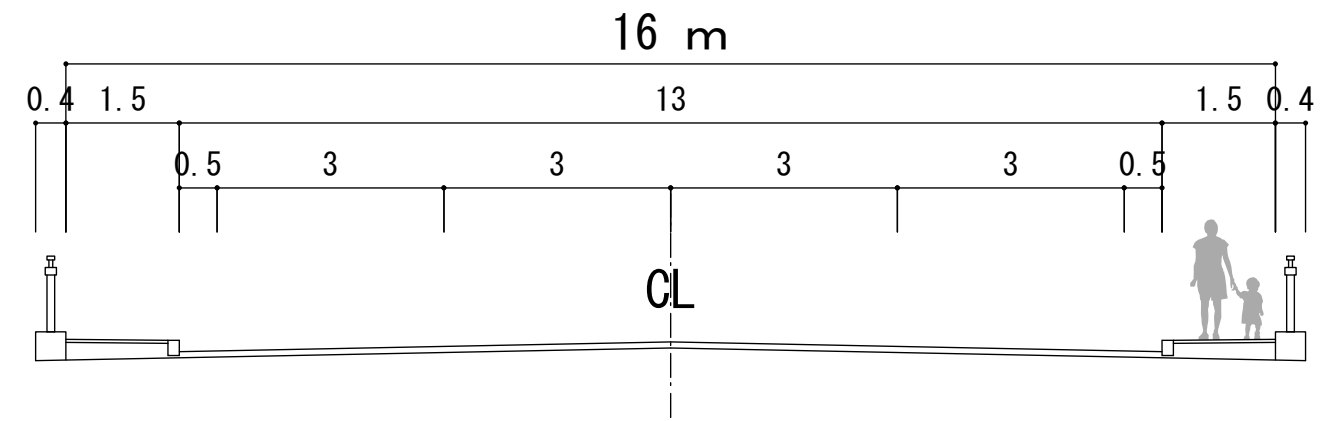


# 既設橋

- ・ 車道：3m×4車線
- ・ 自転車通行帯：なし（路肩0.5mずつ）
- ・ 歩道：1.5mずつ



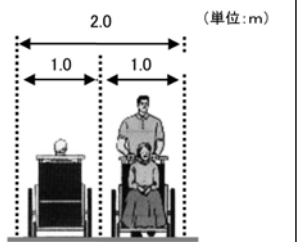
新大橋の現況



■断面図 S=1/100

歩行者や自転車の  
安全性・渡りやすさの向上

<参考：道路構造令>  
標準的な交通量の  
歩道有効幅員=2.0m



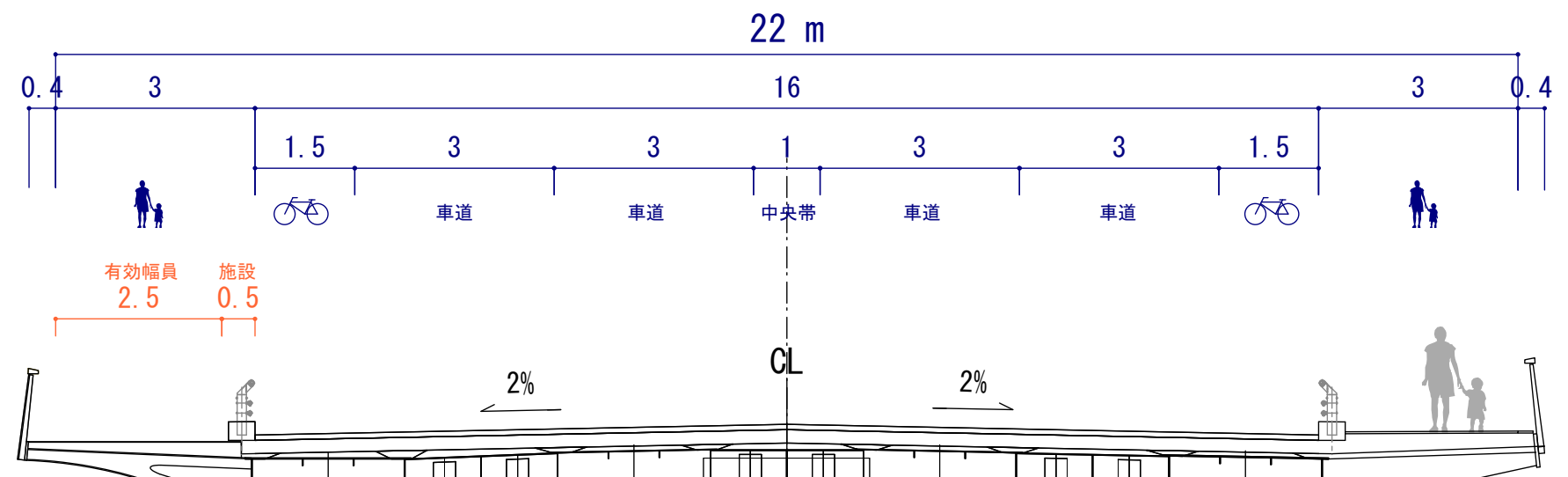
その他の道路  
(車いすどうしのすれ違いを想定)

# 計画

- ・ 車道：3m×4車線（中央帯1.0m）
  - ・ 自転車通行帯：1.5mずつ（路肩兼用）
  - ・ 余裕のある歩道：3.0mずつ（有効幅員2.5m + 施設帯0.5m）
- ※歩道幅員については次ページも参照



計画の模型 (s=1/100)

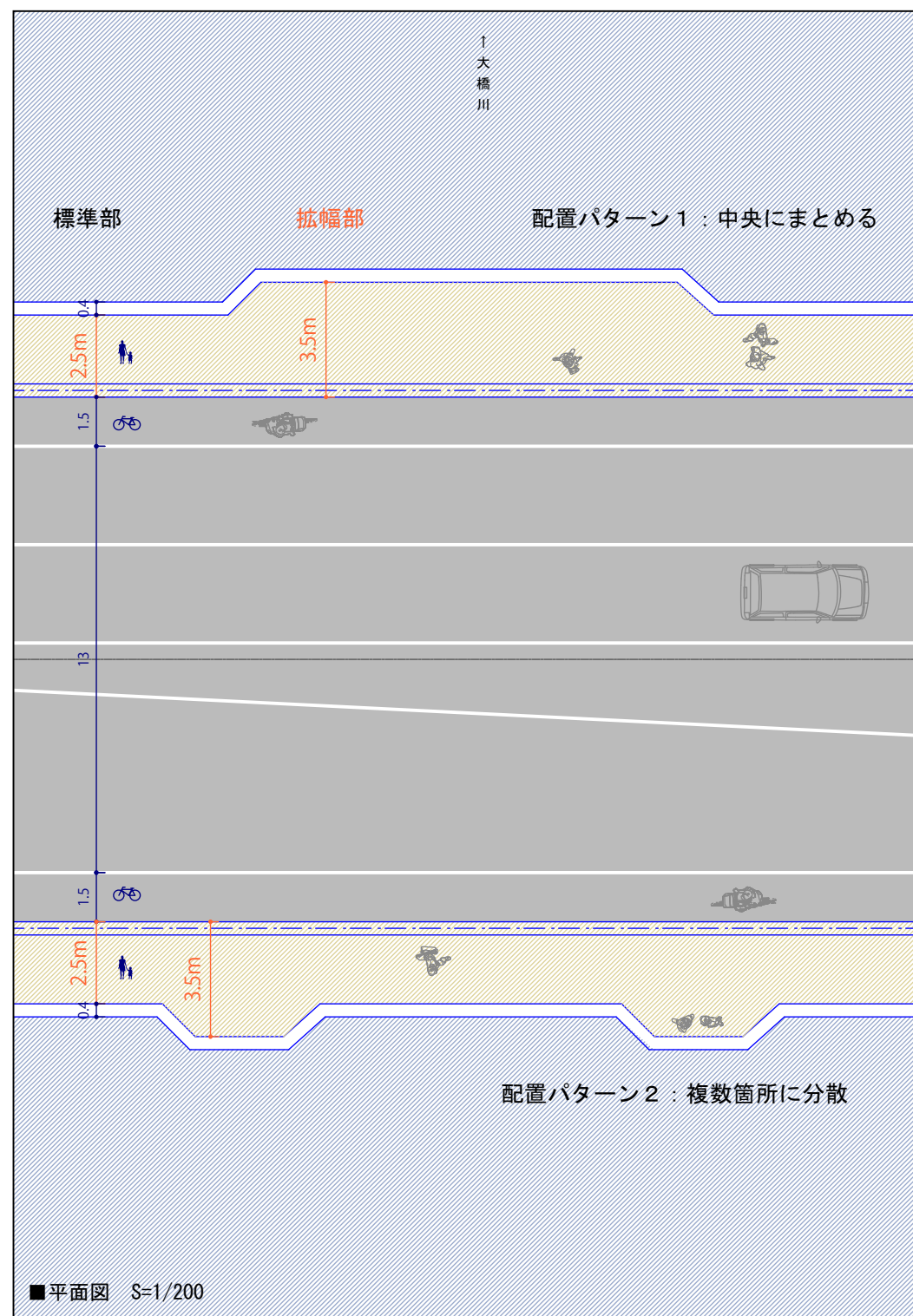


■断面図 S=1/100

### A. 部分拡幅

標準部の歩道幅2.5m  
拡幅部の歩道幅3.5m

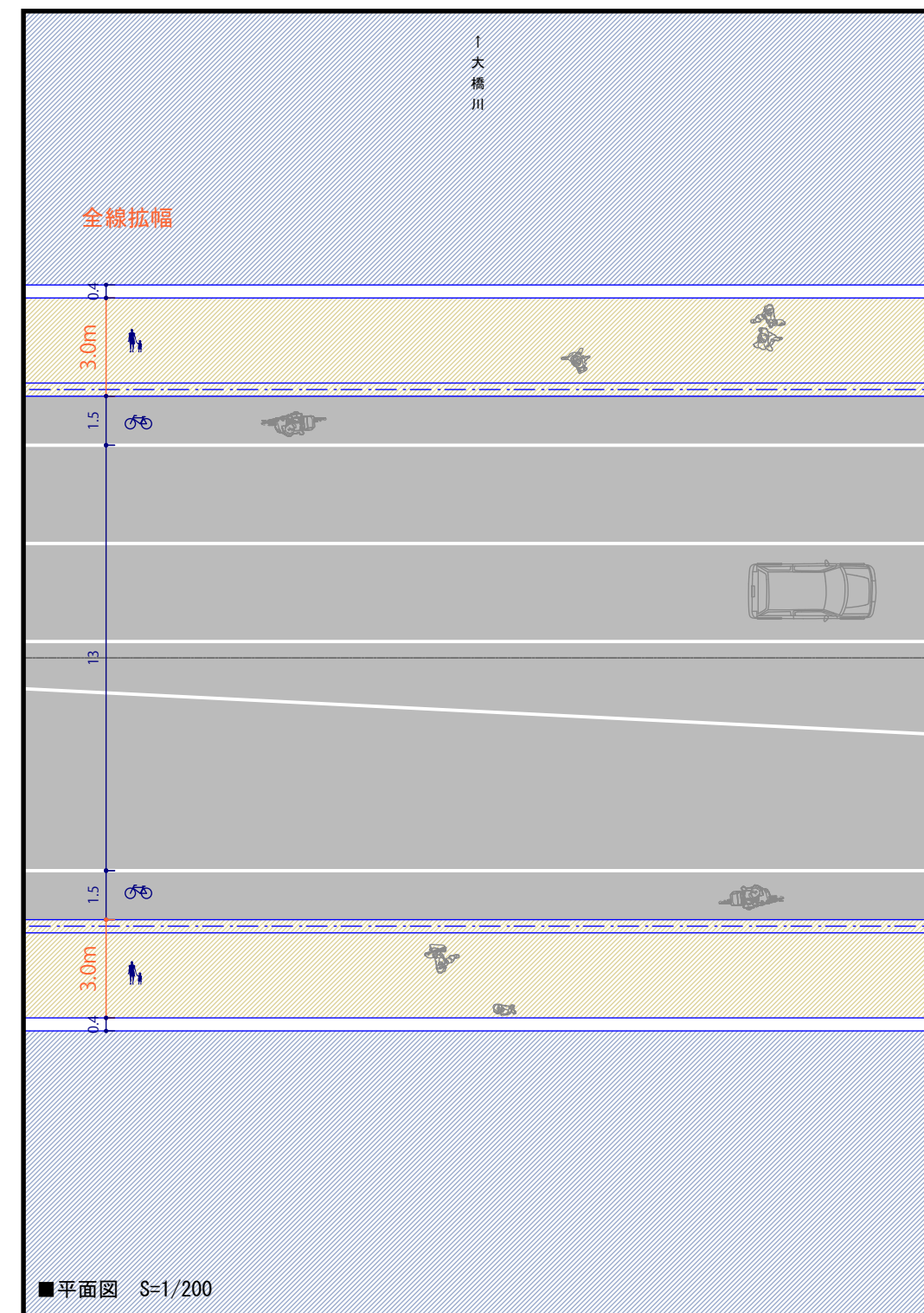
- ・人が滞留するスペースを部分的に確保（配置には複数パターンあり）
- ・標準部が狭く感じる
- ・橋の外から見た際、拡幅部が橋のシルエットを乱す恐れがある



### B. 全体拡幅

全線を通して歩道幅3.0m

- ・どこでも立ち止まって景色を眺めたりすることができる
- ・全体的にゆとりのある歩行空間となる
- ・シルエットを乱す要素がなく、まとまった外観になりやすい



整備基本方針より

③ 橋上空間のデザイン

- ・ 歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・ 手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・ 暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・ まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

■ 新大橋の目指す橋上空間の参考イメージ

手触りのよい素材を用いた高欄。  
寄りかかって景色を眺められる。

素材：铸铁製トップレール



広島市・太田川大橋

歩きやすく、暖かみのある舗装

素材：脱色 As 舗装（右）、自然石舗装（左）

手触りのよい素材を用いた高欄

素材：セラミック製トップレール

暖かみのある、自然素材の  
風合いを活かした舗装

素材：脱色 As 舗装



中央区・西仲橋

■ 松江市内で用いられている地場産材の事例

・ 自然石



島石を用いた縁石（松江歴史館前）

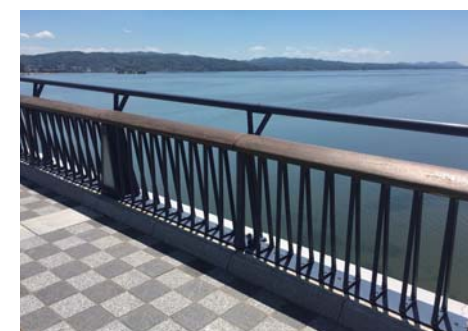


来待石を用いた親柱（米子橋）（ナグモデザイン事務所websiteより）



来待石を用いたサイン

・ 木材



県産ヒノキ材を用いた手すり（宍道湖大橋）

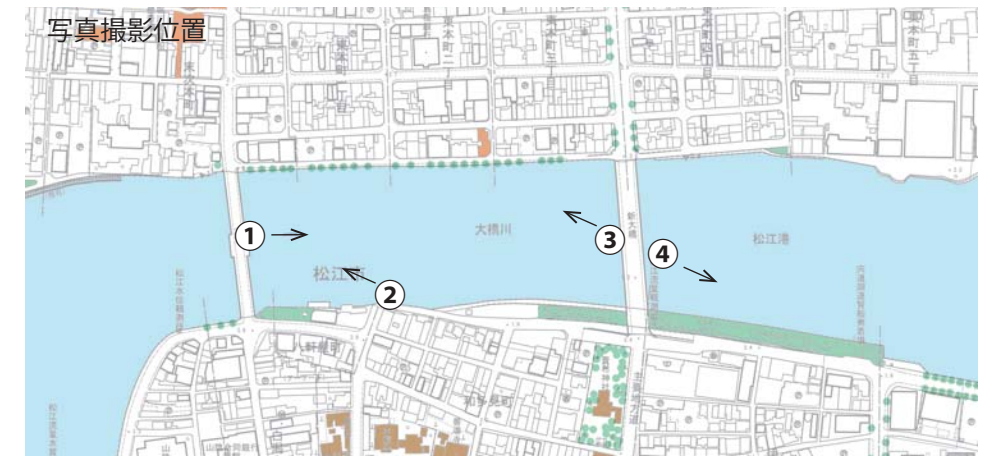
# ■ 橋上空間について c) 歩行空間のイメージ

## 設計方針

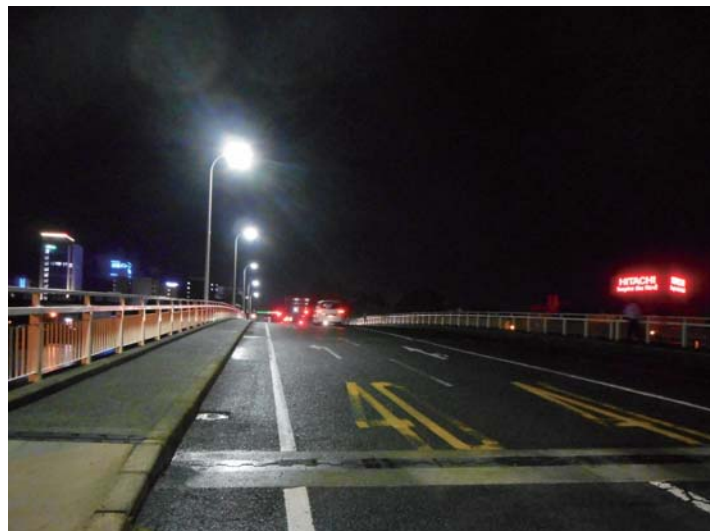
### ③ 橋上空間のデザイン

- ・ 歩きやすく、どこでも佇みたくくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・ 手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・ 暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・ まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

▶ 夜景については、橋単体だけでなく  
松江大橋や水辺など、周辺との関係性を考慮しながら検討



## ■ 新大橋の夜景の現況



標準的な車道照明

## ■ 周辺の夜景の現況

① 松江大橋から新大橋を見る



② 南岸から松江大橋を見る \_ 橋側面に一定間隔の演出照明



③ 新大橋から上流北岸を見る \_ 川沿いに一定間隔のポール灯



④ 新大橋から下流南岸を見る \_ 公園に一定間隔のポール灯

